

モンゴルに生きる



Sara



遊牧民はみんな

強い心を持った

大きな優しさを持った

そして

自由に生きてた

みんなで遊んだ

みんなで笑った

“みんな”で遊んで

こんなに楽しい



こーたろー

馬にのった

名前をつけた

彼の名は

「こーたろー」





こーたろーと1つになれた日

遊牧民と仲良くなれた日

仲間と一緒に空を見た日

遊牧民と草原デートした日

仲間と

“青空トイレ”で

ツレシヨンした日





この空の下。

この道を

こーたろーと一緒に

いつまでも

どこまでも

走っていたい。

そう思えた

この瞬間。



360度。 満天の星空の下。

私たちは北斗七星を目指して歩いた。

手が届きそうな程

近くに見えたから。

月明かりが優しく私たちを包む。

天の川が天を2つに分け、

流れ星は私たちに見つからないように

素早く消えていく。

時が

止まれば良かった。





自由。
生きる自由。
生きている自由。
生きるってことは、本来自由で、
不必要なモノや、
便利なモノがあふれて、
飢餓感ばかりが増している。
不自由さを感じてる。
この広大な自由。
自由。自由。自由。

あたしは

自由。

流れ星がいっぱい降ってきた

星の雨を体いっぱいにあびた



きっと、

地に足つけるって、こーゆーこと。

たくさんの物に囲まれながら生きて、

自分の価値があやふやになって、

生きる意義がわからなくなって、

ふわふわした感覚。

物がなかったら、

こんなにも生きてるってことを実感できる。

生きる喜びを感じると同時に、

生きる厳しさを感じる。

だから、人は手を取りあって生きるんだ。

語らい、

笑いあい、

愛し合い・・・

生きるってことは

こんなにも

素晴らしくて、尊い。







視界一面の広大な自然

これ以上ない安心感

愛する家族と大切な仲間

そしてこの大地

それさえあれば充分

幸せに生きていける

これこそが

あたしがずっと

求めてたもの

朝4時に起きて出発。
辺りはまだ暗い。
今日は乗馬最終日。
心残りがないように、楽しもうと思った。

馬が駆け足で走り出した。
みんな無口だった。
きっと、みんな、自分の馬と
心の中で対話していたのだと思う。
あたしはこーたろーと心を通わせるのに必死だった。

先頭の馬が止まった。
東の空が明るくなってきた。
太陽が顔を出す。
みんなが感動の溜息をもらした。
率直に、
きれいだった。
美しかった。
楽しかった。
幸せだった。
みんなの気持ちはひとつだった。

そしてまた走りだした。
ある子は落馬した。
ある人はゴール手前5mで過呼吸になった。
みんな辛かった。
朝食も食わず、
ただ、淡々と、ゴール目指して走ってた。
体力も限界だった。

そして、
ゴール。

みんなで、完走した。
みんな馬からおりて、抱き合って、泣いた。

完走できた喜びでいっぱいだった。

みんなひとつになって走った。

“最後、みんなが1つの大きな馬に見えた。”



人間の本来あるべき姿

自然に対する敬意

生きることの本質

そんな思考を巡らせながら

今を生きる



